

令和4年度仁淀川地域アクションプランの  
追加、削除、拡充等（予定項目）

仁 淀 川 地 域 本 部

令和4年2月7日（月）



# 令和4年度地域アクションプランの追加・削除等（予定項目）

## 地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしと担い手の育成、事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

### (1) 新規事業の掘り起こしと担い手の育成

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- ②地域が主体となって実施するビジネス研修への支援により、産業振興の取り組みを牽引する担い手を育成

### (2) 課題解決に向けた支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

## 地域アクションプランの増減（▲4）

### (1) 追加（新規）： 2件

- 須崎市養殖漁業等のさらなる振興（須崎市）
- 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化（須崎市）

### (2) 削除（廃止）：▲5件

- 南国市の農園レストランによる地域食材の消費拡大（南国市）
- JA出資型法人（株れいほく未来）を核とする地域活性化の取り組み（土佐町）
- 四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出（中土佐町）
- 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化（須崎市）
- 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備（須崎市）

### (3) 追加（分割）： 0件

### (4) 削除（統合）：▲1件

- 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進（中土佐町）
- 中土佐町の「うまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト（中土佐町）  
→「中土佐町地域ブランドの創出と販売」として統合

## 地域アクションプラン数 R3年度 224件 → R4年度 220件（▲4）

	R3年度 (第4期Ver.2)	R4年度 (第4期Ver.3)				A P 数
	A P 数 R3.9月時点	増減				
		追加	削除	統合・分割	計	
安芸	30					30
物部川	26		▲1		▲1	25
高知市	23					23
嶺北	25		▲1		▲1	24
仁淀川	34					34
高幡	42	2	▲3	(2→1) ▲1	▲2	40
幡多	44					44
合計	224	2	▲5	▲1	▲4	220

○地域産業クラスタープロジェクト R3年度 19件 → R4年度 18件（▲1）

# 仁淀川地域アクションプラン項目（第4期計画Ver. 2（R3年度）と

No.	現在（令和3年度）	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		11	11	10	9	8	10
1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進		●	●	●	●	●
2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興			●	●	●	●
3	日高村まるごとブランド化						●
4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト		●				
5	本川手箱きじの販路拡大		●				
6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進					●	
7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
8	仁淀川流域における地域性の高い特産林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト				●		
10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化	●					
11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	●					
12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興	●					
13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●	●			●
14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
15	いの町中心市街地の活性化		●				
16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化			●			
18	仁淀川町における惣フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト			●			
19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進			●			
20	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進				●		
21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト				●		
22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化						●
23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
24	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化	●					
26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化	●					
27	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進		●				
28	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
29	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実			●			
30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進				●		
31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進					●	
32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化					●	
33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進						●
34	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化						●

# 第4期計画Ver. 3 (R4年度) の対比表

【仁淀川地域】

土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	改定案(令和4年度)
11	11	10	9	8	10		
	●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進
		●	●	●	●	2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興
					●	3	日高村まるごとブランド化
	●					4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト
	●					5	本川手箱きじの販路拡大
				●		6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進
●	●	●	●	●	●	7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興
●	●	●	●	●	●	8	仁淀川流域における地域性の高い特産林産物の生産拡大
			●			9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト
●						10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化
●						11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化
●						12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興
●	●	●			●	13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
●						14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化
	●					15	いの町中心市街地の活性化
	●					16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売
		●				17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化
		●				18	仁淀川町における綱フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト
		●				19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進
			●			20	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進
			●			21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト
					●	22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化
●	●	●	●	●	●	23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
●						24	土佐市における体験型観光と食観光の推進
●						25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化
●						26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化
	●					27	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進
	●					28	いの町本川地区での山岳観光の推進
		●				29	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実
			●			30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進
				●		31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進
				●		32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化
					●	33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進
					●	34	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	林業
AP名 (実施地域)	No.7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興 (仁淀川地域全域)		
実施主体	◎ 林業事業体、森林組合、素材生産業者、製材業者、自伐林家等		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 原木生産量	9.8 万m <sup>3</sup> (H30)	9.7 万m <sup>3</sup>		12.0 万m <sup>3</sup>
(2) 仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量	3.5 万m <sup>3</sup> (H30)	3.8 万m <sup>3</sup>		5.8 万m <sup>3</sup>

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆ <b>施業地確保や集約化による原木生産推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の工場の樹立や林地の集約化計画を策定（H21～）</li> <li>・路網整備の加速化等による木材増産を目的とした「中央西地区路網整備推進会議」を設立（H29）</li> <li>・市町村単位でのワーキンググループを通じ、路網整備計画を策定（H29～）</li> <li>・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な運用に向けたワーキンググループを実施（H30～）</li> </ul> <p>◆ <b>事業体の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林組合経営改善事業により、管内の2森林組合が中期経営計画に基づく進捗管理や経営の実態分析・利益確保に向けた取り組みを実施（H27～）</li> </ul> <p>◆ <b>需給調整体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向けた高密度路網の整備や高性能林業機械の導入（H.28～）</li> <li>・地域林業の成長と資源の循環利用を目的とした「高吾北地域原木安定供給協議会」の設立（H29）</li> </ul> <p>◆ <b>大型製材工場の生産・経営力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池川木材工業(有)が県からの指導も受け、原木調達量や稼働状況等を管理し、市場動向を踏まえた運営を実施（H26～）</li> <li>・池川木材工業(有)が、木材加工流通施設整備事業費補助金を活用し、CLT用ラミナ生産施設を整備（H28.3月）</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 池川木材工業(有)の原木利用量 H26：1.7 万m<sup>3</sup> → H30：2.2 万m<sup>3</sup>、R元：1.9 万m<sup>3</sup></li> <li>◆ 施業地確保や集約化による原木生産推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林経営計画の認定 R元：4,871ha</li> <li>・森の工場の新規設定 H30：2 団地、R元：4 団地</li> <li>・森林経営管理制度の市町村支援体制を整備（H30～）</li> </ul> </li> <li>◆ 事業体の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知中央森林組合：オートチョーカー（無線式自動荷外し器）及び繊維ロープにより生産性が向上（H30）</li> <li>・仁淀川森林組合：繊維ロープにより生産性が向上（H30）</li> </ul> </li> <li>◆ 需給調整体制の整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>・6 事業体に高性能林業機械 9 台を導入（H30～R2）</li> <li>・仁淀川林産協同組合に選別機を導入（H30）</li> <li>・林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備（H29）</li> <li>・スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る原木流通情報システムを導入（R2）</li> </ul> </li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保</li> <li>・林業事業体の経営や技術力の継続的な向上</li> <li>・森林経営管理制度の円滑な運用</li> <li>・製材工場への安定的な供給体制の構築</li> <li>・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応（搬出間伐から保育や作業道開設など雇用維持に向けた転換）</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 施業地確保 や集約化による 原木生産推進	<p><b>市町村と林業事業者等の連携による施業の集約化と原木生産の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 林業事業者、森林組合： 森林所有者との合意形成による事業地の確保</li> <li>● 県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村： 高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業者の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供 新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続</li> </ul>				
◆ 事業者の育 成	<p><b>林業事業者の経営基盤強化と人材の育成・確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 林業事業者、森林組合： 施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善</li> <li>● 県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、町： 森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再生林の推進 林業事業者の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援 林業大学校卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続</li> </ul>				
◆ 需給調整体 制の整備	<p><b>林業振興センター（仮称） の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 仁淀川町森林管理推進協議会： 木材の生産・販売・流通を一括管理するための、「林業振興センター（仮称）」の施設整備</li> <li>● 県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 「林業振興センター（仮称）」の整備に向けた取り組みを支援</li> </ul> <p><b>川上と川中、川下の情報共有及び需給調整体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 仁淀川町森林管理推進協議会： 「林業振興センター（仮称）」整備後の運営</li> <li>● 県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援 需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援</li> </ul>				
◆ 大型製材工 場の生産・経営 力の強化	<p><b>安定的な供給体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県（本庁、林業事務所等）、町： 仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援 定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化 流通に関する情報提供、セミナー等の紹介</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	<b>No. 7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興</b> (仁淀川地域全域)
実施主体	◎林業事業体、森林組合、素材生産業者、製材業者、自伐林家等
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 原木生産量	9.8 万 <sup>m</sup> (H30)	9.5 万 <sup>m</sup>		12.0 万 <sup>m</sup>
(2) 仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量	3.5 万 <sup>m</sup> (H30)	3.7 万 <sup>m</sup>		5.8 万 <sup>m</sup>

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森の工場の樹立や林地の集約化計画を策定 (H21～)
- ・路網整備の加速化等による木材増産を目的とした「中央西地区路網整備推進会議」を設立 (H29)
- ・市町村単位でのワーキンググループを通じ、路網整備計画を策定 (H29～)
- ・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な運用に向けたワーキンググループを実施 (H30～)

◆事業体の育成

- ・森林組合経営改善事業により、管内の2森林組合が中期経営計画に基づく進捗管理や経営の実態分析・利益確保に向けた取り組みを実施 (H27～)
- ・経営基盤の強化及び生産性の向上等を図るため事業戦略づくりを支援 (R2～)

◆需給調整体制の整備

- ・「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向けた高密路網の整備や高性能林業機械の導入 (H28～)
- ・地域林業の成長と資源の循環利用を目的とした「高吾北地域原木安定供給協議会」の設立 (H29)

◆大型製材工場の生産・経営力の強化

- ・池川木材工業(有)が県からの指導も受け、原木調達量や稼働状況等を管理し、市場動向を踏まえた運営を実施 (H26～)
- ・池川木材工業(有)が、木材加工流通施設整備事業費補助金を活用し、CLT用ラミナ生産施設を整備 (H28.3月)

＜主な成果＞

◆池川木材工業(有)の原木利用量

H30 : 2.2 万<sup>m</sup>、R元 : 1.9 万<sup>m</sup>、R2 : 1.6 万<sup>m</sup>

◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森林経営計画の認定 R3.4.1 現在 : 3,390ha
- ・森の工場の新規設定 H30 : 2 団地、R元 : 4 団地、R2 : 3 団地

- ・森林経営管理制度の市町村支援体制を整備 (H30～)

◆事業体の育成

- ・高知中央森林組合:オートジョーカー(無線式自動荷外し器)及び繊維ロープにより生産性が向上 (H30)
- ・仁淀川森林組合:繊維ロープにより生産性が向上 (H30)

◆需給調整体制の整備

- ・高性能林業機械の導入 (H30 : 6 台、R2 : 3 台)
- ・仁淀川林産協同組合に選別機を導入 (H30)
- ・林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備 (H29)
- ・スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る日報管理・原木流通情報システムを導入 (R2～)
- ・林業振興センター(仮称)の起工 (R3)

＜課題＞

- ・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保
- ・林業事業体の経営や技術力の継続的な向上
- ・森林経営管理制度の円滑な運用
- ・製材工場への安定的な供給体制の構築
- ・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施業地確保や集約化による原木生産推進	<p><b>市町村と林業事業者等の連携による施業の集約化と原木生産の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業者、森林組合： 森林所有者との合意形成による事業地の確保</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村： 高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業者の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供 新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続</li> </ul>				
◆事業者の育成	<p><b>林業事業者の経営基盤強化と人材の育成・確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業者、森林組合： 施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、町： 森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再造林の推進 林業事業者の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援 林業大学校卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続</li> </ul>				
◆需給調整体制の整備	<p><b>林業振興センター（仮称）の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： 木材の生産・販売・流通を一括管理するための、「林業振興センター（仮称）」の施設整備</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 「林業振興センター（仮称）」の整備に向けた取り組みを支援</li> </ul> <p><b>川上と川中、川下の情報共有及び需給調整体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： 「林業振興センター（仮称）」整備後の運営</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援 需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援</li> </ul>				
◆大型製材工場の生産・経営力の強化	<p><b>安定的な供給体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●県（本庁、林業事務所等）、町： 仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援 定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化 流通に関する情報提供、セミナー等の紹介</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.16 地域産品を活用した冷蔵等の製造販売</b> (いの町)
<b>実施主体</b>	(有)高知アイス
<b>APへの 位置づけ</b>	H22.4月
<b>事業概要</b>	地域特産品であるゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上と販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
冷蔵等の販売額	4.9億円 (H30)	4.76億円	3.73億円	6.5億円

### これまでの主な動き

#### <これまでの取り組みの内容>

##### ◆販路拡大と販売促進

- ・生産体制及び品質管理の強化（H22～）
- ・商品開発及び販路拡大（H22～）
- ・生産設備の拡充及び直営売店の改修  
→H29 産振補助金の活用  
(事業費：2,037万3千円)
- ・県版 HACCP 第3ステージの認証取得（H28）
- ・ハラル認証の取得を活かしたマレーシア等への販路拡大
- ・複数の海外商談会など出展
- ・原材料の安定確保に向けた検討

##### ◆観光客や工場見学者などへの販売強化

- ・冷凍保管庫の増設、売店の飲食スペース・物販コーナーの増築、工場視察用の窓・見学通路の設置  
→H26 産振補助金の活用  
(事業費：3,895万8千円)
- ・高知市内での高知アイスの売店（Kochi ice cafe よさこい咲都）をオープン（H30）

##### ◆新商品の開発

- ・地域産品（ミレービスケット、ぢちち等）とコラボした新商品の開発
- ・ドトールコーヒー等大手企業とコラボした商品の開発
- ・新商品開発チームの立ち上げの検討

#### <主な成果>

- ◆海外での売上の増加  
H28：4,600万円 → R元：6,800万円
- ◆長期雇用の創出計4名  
H28：26名 → R元：30名

#### <課題>

- ・商品開発部の立ち上げ
- ・原材料の安定確保
- ・Kochi ice cafe よさこい咲都の店長の確保・育成
- ・海外市場へのさらなる販路拡大に対応するための英語が話せる営業人材の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販路拡大と販売促進	<b>販路拡大</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： ヨーロッパ・アメリカ等新たな海外市場への販路開拓、営業力強化のための人材確保・育成</li> <li>●県（地域本部等）： 商談会等の紹介</li> </ul>				
	<b>安定的な原料確保の仕組みづくり</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 新たな搾汁工場の整備、社内農業部門の立ち上げによる自社農場での原料生産及び確保</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案</li> </ul>				
◆観光客や工場見学者などへの販売強化	<b>観光客への販売強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 売店での新商品・メニューの開発販売、TV等のメディアによる宣伝広告の実施、キャッシュレス化の検討、店舗スタッフ人材育成による店舗の魅力アップ</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案</li> </ul>				
◆新商品の開発	<b>新商品の開発・プロモーション</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 新商品開発・販売、社内で新商品開発部の立ち上げ検討</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案、商品開発に活用できる助成金等の紹介</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	No.16 地域産品を活用した冷菓等の製造販売 (いの町)
実施主体	(有)高知アイス
APへの 位置づけ	H22.4月
事業概要	地域特産品であるゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上と販売拡大を図るとともに、生産者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
冷菓等の販売額	4.9億円 (H30)	3.73億円		6.5億円

## これまでの主な動き

## ＜これまでの取り組みの内容＞

## ◆販路拡大と販売促進

- ・生産体制及び品質管理の強化 (H22～)
- ・商品開発及び販路拡大 (H22～)
- ・生産設備の拡充及び直営売店の改修  
→H29 産振補助金の活用  
(事業費：2,037万3千円)
- ・県版 HACCP 第3ステージの認証取得 (H28)
- ・ハラル認証の取得を活かしたマレーシア等への販路拡大
- ・複数の海外商談会など出展
- ・原材料の安定確保に向けた検討
- ・産業振興アドバイザーを導入して BtoC 向け web 通販販路開拓を実施 (R3: 5回)
- ・ドン・キホーテ (台湾・マレーシア) 向け取引開始
- ・新たな搾汁工場の整備 (R3)  
→事業再構築補助金の活用
- ・オンラインショップのリニューアル (R3)  
→事業戦略等推進事業費補助金 (コロナ特別枠) の活用

## ◆観光客や工場見学者などへの販売強化

- ・冷凍保管庫の増設、売店の飲食スペース・物販コーナーの増築、工場視察用の窓・見学通路の設置  
→H26 産振補助金の活用  
(事業費：3,895万8千円)

- ・高知市内での高知アイスの売店 (Kochi ice cafe よさこい咲都) をオープン (H30)

## ◆新商品の開発

- ・映画「竜とそばかすの姫」タイアップ商品の販売
- ・PB 商品 (ポローニャ de アイス) 販売開始

## ＜主な成果＞

## ◆原材料仕入れによる受益者数の増加

H29 14名 → R3.10 15名

## ＜課題＞

- ・商品開発部の立ち上げ
- ・原材料の安定確保
- ・海外市場へのさらなる販路拡大に対応するための英語が話せる営業人材の確保
- ・新工場・売店・フェでの人員の確保
- ・作業の効率化・DX化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販路拡大と販売促進	販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： ヨーロッパ・アメリカ等新たな海外市場への販路開拓、営業力強化のための人材確保・育成</li> <li>●県（地域本部等）： 商談会等の紹介</li> </ul>				
◆観光客や工場見学者などへの販売強化	新たな搾汁工場の整備		安定的な原料確保の仕組みづくり		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 新たな搾汁工場の整備</li> <li>●県（地域本部等）： ものづくり補助金等申請支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 社内農業部門の立ち上げによる自社農場での原料生産及び確保</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案</li> </ul>		
◆新商品の開発	観光客への販売強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 売店での新商品・メニューの開発販売、TV等のメディアによる宣伝広告の実施、キャッシュレス化の検討、店舗スタッフ人材育成による店舗の魅力アップ</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案</li> </ul>				
◆新商品の開発	新商品の開発・プロモーション				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)高知アイス： 新商品開発・販売、社内で新商品開発部の立ち上げ検討</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザー等の活用提案、商品開発に活用できる助成金等の紹介</li> </ul>				

## 修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化 (仁淀川町)		
実施主体	◎MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町		
APへの 位置づけ	R2.4月		
事業概要	MUKAI CRAFT BREWING(株)が清流仁淀川の水と副原料として地元食材を活用したクラフトビールを製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、仁淀ブルーのイメージを活かした地域ブランドを確立し、観光交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
クラフトビール販売額*	－ (R元)	同左		1,300万円

※ 会計年度：3～2月

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆製造及び販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元食材を活用して新たにクラフトビールの製造・販売を行うことを起爆剤とし、宿泊施設やキャンプ場といった周辺施設を含め地域一体で活性化に向けた取り組みを進めるため、集落活動センター「山村自然楽校しもの郷」を開所（H31.3月）</li> <li>・集落活動センター推進事業費補助金を活用して、加工施設を整備（R2.3月完成）</li> <li>・うちんくのビジネス塾の活用（R元.5月～12月:5回）</li> <li>・酒類製造免許（税務署）及び酒類製造業・飲食店営業（保健所）の営業許可を取得（R2.6月）</li> <li>・クラフトビールの醸造開始（R2.9月）</li> <li>・ムカイクラフトブルーイング（醸造設備）と併設された飲食スペース「BLUE BREW（ブルーブルー）」のオープン（R2.11.1）</li> </ul> <p>◆積極的な販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内宿泊施設、飲食店での販売を検討（R元～）</li> </ul>	<p>◆ブランド化戦略の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラフトビールの製造・販売を行う MUKAI CRAFT BREWING(株)を設立（R元.7月）</li> <li>・関係者による開業に向けた定例会を実施し、醸造施設の内外観の検討や販売価格、提供メニュー等を協議（R元.11月～） （関係者・・・MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町、仁淀川町商工会、県）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆クラフトビールの醸造及び販売を開始</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・醸造施設の円滑な稼働と安定生産</li> <li>・製造及び販売に関する人材の確保</li> <li>・品質管理と衛生管理の徹底</li> <li>・ブランド化の確立、販売促進</li> <li>・地域との連携強化</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆製造及び販売体制の強化	生産体制の構築・人員体制の強化			移動販売車両の購入、設備拡大の検討	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 生産工程の確立、受入体制の強化、新たな人材の確保</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等） : 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 増産体制の確立</li> <li>●県（地域本部等） : ステップアップ事業、ものづくり補助金など活用の可能性を検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	
◆積極的な販売促進活動	各種イベントへの出店（地元イベント、中四国のビールフェスティバルなど）、自社でのイベント開催				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : イベント出店による情報発信、町内事業者と連携したイベント開催</li> <li>●県（地域本部等） : 県内イベントなどに関する情報提供</li> </ul>				
◆ブランド化戦略の実践	商談会・フェア等への出店、テストマーケティングの実施など外商活動				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 県版 HACCP の認証取得、商談会等への出展による販路拡大、テストマーケティング等による販促活動</li> <li>●県（地域本部等） : 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援、県版 HACCP の認証取得に向けた支援</li> </ul>				
◆ブランド化戦略の実践	効果的なプロモーション活動		副原料となる新素材の発掘と新商品開発		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : コンセプトづくり、戦略的な販売活動の展開</li> <li>●仁淀川町 : 地元飲食店での提供促進、観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信</li> <li>●県（地域本部等） : 仁淀ブルー観光協議会との連携支援（観光客誘致など）、産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現</li> <li>●県（地域本部等） : 新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案</li> </ul>		
<p>【用語】・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化 (仁淀川町)
実施主体	◎MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	MUKAI CRAFT BREWING(株)が清流仁淀川の水と副原料として地元食材を活用したクラフトビールを製造するとともに、県内外への販路拡大を図りながら、仁淀ブルーのイメージを活かした地域ブランドを確立し、観光交流人口の拡大や地域の活性化に繋げる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
クラフトビール販売額※	— (R元)	370万円		1,300万円

※ 会計年度：3～2月

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆製造及び販売体制の強化

- ・地元食材を活用した新たなクラフトビールの製造・販売を起爆剤とし、宿泊施設等の周辺施設を含め地域一体で活性化に向けて取り組むため、集落活動センター「山村自然楽校しもなの郷」を開所（H31.3月）
- ・集落活動センター推進事業費補助金を活用して、加工施設を整備（R2.3月完成）
- ・うちんくのビジネス塾の活用（R元.5月～12月:5回）
- ・酒類製造免許（税務署）及び酒類製造業・飲食店営業（保健所）の営業許可を取得（R2.6月）
- ・クラフトビールの醸造開始（R2.9月）
- ・ムカイクラフトブルーイング（醸造設備）と併設された飲食スペース「BLUE BREW（ブルーブルー）」のオープン（R2.11.1）
- ・県工業技術センターへの成分分析及び官能評価の依頼（R3.12月～）
- ・集落活動センター「山村自然楽校しもなの郷」で職員を1名雇用予定（R4.1月～）
- ・地域おこし協力隊で1名が採用予定（R4.2月～）

◆積極的な販売促進活動

- ・町内外の飲食店ででの卸販売を開始（R3.4月～）
- ・ふるさと納税の取扱い開始（R3.5月～）

- ・集落活動センターのイベント販売（R2：2回、R3：1回）

◆ブランド化戦略の実践

- ・クラフトビールの製造・販売を行う MUKAI CRAFT BREWING(株)を設立（R元.7月）
- ・関係者による開業に向けた定例会を実施し、醸造施設の内外観の検討や販売価格、提供メニュー等を協議（R元.11月～）  
（関係者・・・MUKAI CRAFT BREWING(株)、仁淀川町、仁淀川町商工会、県）
- ・おち仁淀川キャンプフィールドでの出張販売（R3.7月、10月）
- ・R3年度地場産業大賞の「産業振興計画賞」を受賞（R3.12月）

＜主な成果＞

- ◆クラフトビールの本格醸造・販売の開始による来店者数の増加（交流人口増） R2：1,334人

＜課題＞

- ・円滑な稼働と安定生産に向けた生産体制の構築
- ・安全性の確保や事業化の強化に向けた品質管理と衛生管理の確立
- ・ブランド力向上に向けたプロモーション活動や新商品開発



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆製造及び販売体制の強化	生産体制の構築・人員体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 生産工程の確立、受入体制の強化、新たな人材の確保、連携</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等） : 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など）</li> </ul>				
◆積極的な販売促進活動	各種イベントへの出店（地元イベント、中四国のビールフェスティバルなど）、自社でのイベント開催				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : イベント出店による情報発信、町内事業者と連携したイベント開催</li> <li>●県（地域本部等） : 県内イベントなどに関する情報提供</li> </ul>				
	商談会・フェア等への出店、テストマーケティングの実施など外商活動				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 県版 HACCP の認証取得、商談会等への出展による販路拡大、テストマーケティング等による販促活動</li> <li>●県（地域本部等） : 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援、県版 HACCP の認証取得に向けた支援</li> </ul>					
◆ブランド化戦略の実践	効果的なプロモーション活動		副原料となる新素材の発掘と新商品開発		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : コンセプトづくり、戦略的な販売活動の展開</li> <li>●仁淀川町 : 地元飲食店での提供促進、観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信</li> <li>●県（地域本部等） : 仁淀ブルー観光協議会との連携支援（観光客誘致など）、産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●MUKAI CRAFT BREWING(株) : 地域資源の掘り起こし、試作品づくり・商品化の実現</li> <li>●県（地域本部等） : 新商品の味覚・官能検査による品質評価など県工業技術センターの活用提案</li> </ul>		
<p>【用語】・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト (仁淀川町)
実施主体	◎(株)フードプラン、仁淀川町、庭先集荷の農家
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(株)フードプランの販売額※	7.4 億円 (R元)	同左	8.2 億円 (対前年度比 110.8%)	10 億円

※ 会計年度：10～9月

### これまでの主な動き

#### <これまでの取り組みの内容>

##### ◆生産能力の拡大

- ・食品加工場の加工用水供給施設を整備（専用水道及び冷却水施設整備）（H21）  
→H21 産振補助金の活用  
（事業費 5,417 万 6 千円）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、端野菜を活用したスーパの製造を検討（H22:4回）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、経営戦略の構築、組織運営・経営マネジメントに関するノウハウを習得（H25:8回）
- ・経営分析及び経営戦略の策定（H26）  
→H26 産振補助金（ステップアップ事業）の活用  
（事業費 352 万 7 千円）
- ・食品産業総合支援事業費補助金を活用して、機械設備（マスコロイダー）を導入（H29.8月）
- ・生産能力の拡大に向けて新工場を整備（H30.3月）  
→H29 産振補助金の活用  
（事業費 3 億 1,482 万 1 千円）
- ・ものづくり補助金を活用して、高速自動ラベリング計量システムを導入（H30.12月）
- ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第 3 ステージの認証を取得（H30.12月）

##### ◆販路拡大、商品開発

- ・四国内のシェアを維持、拡大しつつ、近畿圏への営業を強化

- ・県内外の展示商談会への出展

- ・市場対応商品開発等事業費補助金を活用して、端野菜を活用したドレッシングのレシピを開発（H28.11月）

- ・経営革新等支援事業費補助金を活用して、ドレッシングのランディングページを作成（H28.12月）

- ・産業振興センターの支援を受けて、事業戦略を策定（H30.9月）

##### ◆原料供給体制の強化

- ・町内を中心とした野菜生産の仕組みとして、加工用ネギの栽培を開始（R元～）

#### <主な成果>

##### ◆雇用の創出

H28：65人（正規11人 パート54人）

→ R2：83人（正規16人 パート67人）

#### <課題>

- ・近畿、関東圏へのさらなる販路拡大に向けた輸送ルートの確保や消費期限の延長
- ・原材料の市場価格による利益変動を抑制するための県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築、高付加価値商品の開発・販売
- ・安定した雇用の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産能力の拡大	製造ラインにおける生産性の向上、品質管理の徹底				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン： 製造部門における現場管理の強化や設備の導入による生産性の向上、需要に対応するための工場稼働時間の検討、人員体制の強化</li> <li>●仁淀川町： 人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など）</li> <li>●県（地域本部等）： ものづくり補助金などの活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆販路拡大、商品開発	四国内販路の維持拡大、近畿圏、関東圏への販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン：ターゲット地域の設定、商談会等への出展や営業活動の展開、物流手段の確保、消費期限延長の検討</li> <li>●県（地域本部等）：商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援</li> </ul>				
	端野菜を活用した高付加価値商品の開発・販売				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン： ドレッシングの新商品開発・販売、きじ出汁野菜鍋を活用した観光振興</li> <li>●仁淀川町： きじ出汁野菜鍋を活用した観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、6次産業化セミナー等の支援制度に関する情報提供</li> </ul>					
◆原料供給体制の強化	町内を中心とした原料供給体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン： 町内生産者と連携した加工用ネギの栽培、生産者の拡大、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 農業改良普及所による栽培指導、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討</li> </ul>				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト (仁淀川町)
実施主体	◎(株)フードプラン、仁淀川町、生産者団体、庭先集荷の農家
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(株)フードプランの販売額※	7.4 億円 (R元)	8.2 億円	8.5 億円	10 億円

※ 会計年度：10～9月

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆生産能力の拡大

- ・食品加工場の加工用水供給施設を整備（専用水道及び冷却水施設整備）（H21）  
→H21 産振補助金の活用  
（事業費 5,417 万 6 千円）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、端野菜を活用したスーブの製造を検討（H22:4回）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、経営戦略の構築、組織運営・経営マネジメントに関するノウハウを習得（H25:8回）
- ・経営分析及び経営戦略の策定（H26）  
→H26 産振補助金（ステップアップ事業）の活用  
（事業費 352 万 7 千円）
- ・食品産業総合支援事業費補助金を活用して、機械設備（マスコイダー）を導入（H29.8月）
- ・生産能力の拡大に向けて新工場を整備（H30.3月）  
→H29 産振補助金の活用  
（事業費 3 億 1,482 万 1 千円）
- ・ものづくり補助金を活用して、高速自動ラベリング計量システムを導入（H30.12月）
- ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 第 3 ステージの認証を取得（H30.12月）

◆販路拡大、商品開発

- ・四国内のシェアを維持、拡大しつつ、近畿圏への営業を強化

- ・県内外の展示商談会への出展
  - ・市場対応商品開発等事業費補助金を活用して、端野菜を活用したドレッシングのレシピを開発（H28.11月）
  - ・経営革新等支援事業費補助金を活用して、ドレッシングのランディングページを作成（H28.12月）
  - ・産業振興センターの支援を受けて、事業戦略を策定（H30.9月）
- ◆原料供給体制の強化
- ・町内を中心とした野菜生産の仕組みとして、加工用ネギの栽培を開始（R元～）
  - ・新工場の隣地で農福連携による水耕栽培を検討中（R3.5月～）  
→水耕栽培ハウス等を建設予定（R4）

<主な成果>

- ◆雇用の創出
- H28：65人（正規11人 パート54人）  
→ R2：83人（正規16人 パート67人）

<課題>

- ・生産性の向上に向けた安定した雇用の確保
- ・近畿、関東圏への販路拡大に向けた輸送ルートの確保や消費期限の延長
- ・産地形成による県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築、高付加価値商品の開発・販売

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産能力の拡大	製造ラインにおける生産性の向上、品質管理の徹底				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン：製造部門における現場管理の強化や設備の導入による生産性の向上、需要に対応するための工場稼働時間の検討、人員体制の強化</li> <li>●仁淀川町：人材確保に向けた情報提供（移住施策、地域おこし協力隊など）</li> <li>●県（地域本部等）：ものづくり補助金などの活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆販路拡大、商品開発	四国内販路の維持拡大、近畿圏、関東圏への販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン：商談会等への出展や営業活動の展開、物流手段の確保、消費期限延長の検討</li> <li>●県（地域本部等）：商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援</li> </ul>				
	端野菜を活用した高付加価値商品の開発・販売				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン：ドレッシングの新商品開発・販売、きじ出汁野菜鍋を活用した観光振興</li> <li>●仁淀川町：きじ出汁野菜鍋を活用した観光客誘致のための仕組みづくり、メディアを通じた情報発信</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、6次産業化セミナー等の支援制度に関する情報提供</li> </ul>					
◆原料供給体制の強化	町内を中心とした原料供給体制の強化				
	農福連携による水耕栽培施設の検討・整備・運営				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)フードプラン：町内生産者と連携した加工用ネギの栽培、生産者の拡大、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討</li> <li>●生産者団体：水耕栽培施設の検討や、円滑な整備・運営</li> <li>●県（地域本部等）：農業改良普及所による栽培指導、町内を中心に栽培できる新たな品目の可能性の検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.20 さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進</b> (佐川町)
<b>実施主体</b>	◎(有)吉本乳業、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県（仁淀川地区）
<b>AP への 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
牛乳類商品販売額※	1.06 億円 (R元)	同左	1.1 億円 (対前年度比 103.8%)	1.57 億円

※ 会計年度：8～7月

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農商工連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置（H22.7月）</li> <li>地乳 PR 用広報・販促物を整備 →H22、H23 産振補助金の活用 （事業費 516 万 1 千円）</li> <li>地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「ぢちちブランド」として PR 開始（H26～）</li> <li>佐川ものづくり支援事業補助金を活用し、地元農産物等を使った加工品の開発（H27～30:7 件）</li> <li>さかわ地乳まつりの開催（H27～）</li> <li>畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議（H26、H27:2 回）</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討（H28:3 回）</li> <li>地元高校生と連携した新商品開発及び PR イベントの実施（H28～）</li> </ul> <p>◆<b>牛乳加工施設の整備及び販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(有)吉本乳業 中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設（H26）</li> </ul>	<p>HACCP アドバイザーによる現地指導を実施（H28:1 回）</p> <p>さかわの地乳製造施設を整備（H29.3 月） →H28 産振補助金の活用 （事業費 3,191 万 4 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出展（H29～）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地乳ブランド PR イベント（さかわの地乳祭り）の開催 H27～R元：4 回</li> <li>◆地乳ブランド販促物の作成 H22～30：4 種類</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した新商品の開発検討・既存品の PR</li> <li>・さらなる販路拡大に向けた、商談会等での販売促進</li> <li>・地乳ブランド確立のためのさらなる体制強化</li> <li>・従業員の確保、育成</li> <li>・衛生管理体制の強化</li> </ul>
---	--

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：加工品の開発及び磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討</li> </ul>				
	販売促進の体制強化、地乳ブランドのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地乳プロジェクト推進会議、佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等： 町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳PRイベント等の開催</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	HACCP 認証取得	衛生管理体制の強化			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： 県版 HACCP 第3ステージの認証取得に向けた社内体制の構築</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： 県版 HACCP に基づく衛生管理手順の遵守</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>			
	県内での消費拡大・県外量販店等への販路拡大				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業、地元商工業者： 積極的な商談会等への出展、プロモーション活動の実施</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul>					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

**修正後**

**仁淀川地域アクションプラン**

**分野**

**商工業**

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.20 さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 (佐川町)</b>
<b>実施主体</b>	◎(有)吉本乳業、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県 (仁淀川地区)
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
牛乳類商品販売額※	1.06 億円 (R元)	1.1 億円	1.18 億円	1.57 億円

※ 会計年度：8～7月

**これまでの主な動き**

**<これまでの取り組みの内容>**

**◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進**

- ・農商工連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置 (H22.7月)
- ・地乳 PR 用広報・販促物を整備  
→H22、H23 産振補助金の活用  
(事業費 516 万 1 千円)
- ・地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「ぢちちブランド」として PR 開始 (H26～)
- ・佐川ものづくり支援事業補助金を活用し、地元農産物等を使った加工品の開発 (H27～30:7 件)
- ・さかわ地乳まつりの開催 (H27～)
- ・畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議 (H26、H27:2 回)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討 (H28:3 回)
- ・地元高校生と連携した新商品開発及び PR イベントの実施 (H28～)

**◆牛乳加工施設の整備及び販路拡大**

- ・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設 (H26)
- ・HACCP アドバイザーによる現地指導を実施 (H28:1 回)

- ・さかわの地乳製造施設を整備 (H29.3月)  
→H28 産振補助金の活用  
(事業費 3,191 万 4 千円)
- ・地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出展 (H29～)
- ・高知県地域産品地産地消推進事業費補助金を活用した宅配キャンペーンの実施 (R3)

**<主な成果>**

- ◆地乳ブランド PR イベント (さかわの地乳祭り) の開催  
H27～R元：4 回
- ◆地乳ブランド販促物の作成  
H22～30：4 種類
- ◆宅配キャンペーンによる新規成約件数  
R3：34 件

**<課題>**

- ・地乳を活用した新商品の開発検討
- ・商品の PR 強化
- ・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化
- ・衛生管理体制の強化
- ・販路拡大に向けた、商談会等での販売促進



## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：加工品の開発及び磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討</li> </ul>				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	販売促進の体制強化、地乳ブランドのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地乳プロジェクト推進会議、佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等： 町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳PRイベント等の開催</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	HACCP 認証取得		衛生管理体制の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： 県版 HACCP 新第2ステージの認証取得に向けた社内体制の構築</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： 県版 HACCP に基づく衛生管理手順の遵守</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
	県内での消費拡大・県外量販店等への販路拡大				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業、地元商工業者： 積極的な商談会等への出展、プロモーション活動の実施</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul>					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト</b> (佐川町) ※地域産業クラスター関連（佐川町木材産業クラスタープロジェクト）
<b>実施主体</b>	◎佐川町、（一財）しあわせづくり佐川
<b>APへの 位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 年間売上高	-			
(2) 来場者数	-			

目標値等の精査を行い、R4のVer.3時点で追記予定

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆道の駅施設の整備、体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討（H28～29）</li> <li>・道の駅建設候補地の絞り込みと決定（H30～R元）</li> <li>・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施（R元：6回）             <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：道の駅とは・テーマ毎のアイデア出し</li> <li>第2回：佐川らしさのキーワード探し</li> <li>第3回：建設予定地の見学、ゾーニングの検討</li> <li>第4回：レイアウト、運営体制、商品開発等の検討</li> <li>第5回：道の駅基本構想（案）の検討</li> <li>第6回：とりまとめ、次年度への取り組みについて</li> </ul> </li> <li>・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催（R2：3回）             <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：基本計画の構成（案）及び基本的な方向性の検討</li> <li>第2回：基本計画（案）、計画策定・事業スケジュールの検討</li> <li>第3回：基本計画（案）～決定について</li> </ul> </li> <li>・「まきのさんの道の駅・佐川」基本設計業務の実施（R2）</li> </ul>	<p>◆佐川町の特産品等の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町商品開発ワークショップを開催（R2：5回）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定（R元）</li> <li>◆道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定（R2.8月）</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり</li> <li>・道の駅施設の円滑な整備</li> <li>・町ならではの魅力ある商品等の品揃え</li> </ul>
--	---

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆道の駅施設の整備、体制強化	道の駅施設の整備検討・施設整備				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 基本計画策定、地盤調査、基本設計及び実施設計の策定、施設整備</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討</li> </ul>				
	運営体制の検討・確立			運営体制の充実・強化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 運営管理者の検討及び運営体制の確立、地元との協議、道の駅登録調整</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 取扱商品やメニューの開発等による物販・飲食・観光機能の強化 スタッフのスキルアップ等による人的体制の強化</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	
◆佐川町の特産品等の充実強化	物販・飲食・体験型観光メニューの磨き上げ及び開発				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 町内商工業者等との連携による地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発、町内関係機関との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
				道の駅を核とした販売促進	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： SNS、メディア等を活用した情報発信</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト</b> (佐川町) ※地域産業クラスター関連 (佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト)
<b>実施主体</b>	◎佐川町、(一財)しあわせづくり佐川
<b>APへの位置づけ</b>	R2.4月
<b>事業概要</b>	佐川町の地域食材を活用した食と町民によるおもてなしの心を表す「ご馳走」をコンセプトとした道の駅を新たに整備し、特産品等の販売を促進するとともに、地域の木材に触れられる場の提供や周辺の観光施設との連携を通じて、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 年間売上高	-	-	-	2.5億円
(2) レジ通過者数	-	-	-	25万人

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆道の駅施設の整備、体制強化

- ・佐川町道の駅検討委員会で建設候補地等を検討 (H28～29)
- ・道の駅建設候補地の絞り込みと決定 (H30～R元)
- ・関係者等の参画による、道の駅基本構想策定ワークショップを実施 (R元：6回)
- ・佐川町道の駅基本計画策定委員会の開催 (R2：3回)
- ・「まきさんの道の駅・佐川」基本設計書策定のための住民説明会・ワークショップ (R2～3：4回)
- ・「まきさんの道の駅・佐川」実施設計業務の実施 (R3)
- ・運営組織「一般財団法人しあわせづくり佐川」設立 (R3)
- ・農山漁村振興交付金を活用した施設整備 (R3～4)
- ・道の駅事業に関する地区懇談会 (R3：11回)

◆佐川町の特産品等の充実強化

- ・佐川町商品開発ワークショップを開催 (R2：5回)
- ・商品開発ブラッシュアップ事業 (R2～)

<主な成果>

- ◆関係者によるワークショップを基に、道の駅基本構想を策定 (R元)
- ◆道の駅基本計画策定委員会での協議を通じ、道の駅基本計画を策定 (R2.8月)
- ◆住民説明会・ワークショップでの意見を基に、道の駅基本設計書を策定 (R3.6月)
- ◆地域資源を活用した商品・メニュー開発 R2：5品

<課題>

- ・道の駅施設の円滑な整備及び運営
- ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり
- ・地域資源を活用した魅力ある商品等の磨き上げ・開発

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆道の駅施設の整備、体制強化</p>	<p>道の駅施設の整備検討・施設整備</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 基本計画策定、地盤調査、基本設計及び実施設計の策定、施設整備</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<p>運営体制の検討・確立</p>			<p>運営体制の充実・強化</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 運営管理者の検討及び運営体制の確立、地元との協議、道の駅登録調整</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 取扱商品やメニューの開発等による物販・飲食・観光機能の強化 スタッフのスキルアップ等による人的体制の強化</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	
<p>◆佐川町の特産品等の充実強化</p>	<p>物販・飲食・体験型観光メニューの磨き上げ及び開発</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： 町内商工業者等との連携による地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発、町内関係機関との連携による観光客の町内周遊に向けた仕掛け作り</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
			<p>道の駅を核とした販売促進</p>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、（一財）しあわせづくり佐川： SNS、メディア等を活用した情報発信</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</b> (仁淀川地域全域)
<b>実施主体</b>	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、(一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、越知町観光協会、(一社)日高村観光協会
<b>APへの位置づけ</b>	H24.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 仁淀ブルー観光協議会関連のツアー送客数	6,671人 (H30)	8,014人	1,985人	7,300人
(2) 主要宿泊施設の宿泊者数	62,232人 (H30)	62,412人	38,047人	72,000人
(3) 主要観光施設等の入込客数	252,397人 (H30)	281,991人	185,160人	276,000人

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b>          【指標の主要宿泊施設：11施設】          【指標の主要観光施設等：23施設等】</p> <p>◆<b>商品造成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型観光旅行商品の造成（H23～）</li> <li>・仁淀ブルーDMOアドバイザーを導入して、事業者等の商品造成を支援（H30～）</li> </ul> <p>◆<b>広報・誘客促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外メディアの活用や看板掲出によるPRを実施</li> <li>・県外の展示会やイベント等への出展</li> <li>・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開（H23～）</li> <li>・SNSでの記事投稿（H27～）</li> <li>・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成（H28～）</li> <li>・ホームページの充実化（H29：スマートフォン対応、多言語対応、H30:OTA（じゃらんネット）との連携）</li> </ul> <p>◆<b>受入・おもてなし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光関連事業者等を対象とした研修の実施</li> <li>・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施（H29～）</li> <li>・簡易型ガイドブックの多言語化（H30）</li> </ul> <p>◆<b>組織体制強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域観光を推進する母体となる仁淀川地域観光協議会を設立（H22.11月）</li> <li>・協議会の体制強化に向けて法人化し、(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立（H27.12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種旅行業登録（H28）</li> <li>・仁淀川地域観光振興計画の策定（H29.3月）</li> <li>・仁淀ブルーDMO観光戦略の策定（H30.3月）</li> <li>・仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施（H30～）</li> <li>・マーケティング機能の強化（ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築）（H30）</li> <li>・土佐の豊穰祭、高知仁淀ブルーライド、仁淀川ひな回廊、JRトロッコ列車「幕末維新号」との連携事業等を実施</li> <li>・県版地域おこし協力隊を活用したエリア内マーケティングの実施（R2～）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆日本版DMO登録（R2.3月）</li> <li>◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数 H28：181本、H29：207本、H30：241本 R元：272本</li> <li>◆GREAT EARTH「高知仁淀ブルーライド」参加者数 H30：24都道府県343名、R元：27都道府県546名</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上</li> <li>・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大</li> <li>・自然景観以外の各施設等における観光客の満足度向上</li> <li>・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化</li> </ul>
---	--

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品造成	<b>仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 着地体験プログラム開発サポート、宿泊施設と連携・協働したプログラム開発サポート、周遊促進ツアーの造成・販売、特産品開発サポート、グルメ開発サポート</li> <li>●市町村、観光協会：着地体験プログラム、宿泊施設と連携・協働したプログラム、特産品、グルメの開発・サポート</li> <li>●県（地域本部等）：各種アドバイザーや土佐の観光創生塾等セミナーの紹介</li> </ul>				
◆広報・誘客促進	<b>消費を増やすための流通と販売の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会、市町村、観光協会等： 協議会ホームページで宿泊・体験プログラムを予約販売できる仕組みの構築、飲食店を予約できる仕組みの検討、特産品を販売できる仕組みの検討</li> </ul>				
◆受入・おもてなし	<b>仁淀川流域の魅力的な情報提供力の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 公式ホームページの充実、総合パンフレットの充実とデジタルパンフレット化</li> </ul>				
◆組織体制強化	<b>誘客を促進するためのセールス・プロモーションの強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会： 県内外の旅行会社へのセールス、県内外での仁淀川流域のPR活動、マスコミ活用、インバウンドへの対応（ファムツアーの実施、各種商談会への参加等）</li> <li>●県：県等が主催する商談会やその他事業の紹介、情報共有</li> </ul>				
◆受入・おもてなし	<b>受入・おもてなし体制の整備</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会： ガイド等観光人材の育成、受入のワンストップ体制整備、観光による地域づくりの地域事業者等への理解促進、各拠点で流域の観光情報を共通発信、インバウンド獲得に向けた取り組み</li> <li>●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援</li> </ul>				
◆組織体制強化	<b>組織体制・連携強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会： マーケティング機能強化（データに基づく戦略策定・実行）、テーマ別ワーキンググループ開催</li> <li>●県：コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>				
<p>【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。 観光庁が登録を所管。R2年4月から登録基準の厳格化に伴い、名称を「日本版DMO」から「登録DMO（観光地域づくり法人）」に、「候補法人」から「候補DMO」に変更。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook、Instagramなどがある。</p>					

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進 (仁淀川地域全域)		
実施主体	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光 協会、越知町観光協会、(一社)日高村観光協会		
APへの 位置づけ	H24.4月		
事業概要	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品 化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化 を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数	6.5万人 (R1)	4.3万人		6.6万人
(2) 入込客数	108.6万人 (R1)	85.4万人		111.8万人
(3) 観光消費額	1,248百万円 (R2)	1,248百万円		2,102百万円
(4) 来訪者満足度	98% (R2)	98%		98%
(5) リピーター率	46% (R2)	46%		50%
(6) 仁淀ブルー観光協議会 関連のツアー送客数※	6,671人 (H30)	1,985人		＝

※(6)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>魅力づくりの強化・推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルーDMO アドバイザーの支援等による、事業者等の商品造成を支援</li> <li>仁淀ブルー体験博の実施 (R3)</li> </ul> <p>◆<b>プロモーション・情報発信の強化・推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内外メディアの活用や看板掲出、SNS等によるPRを実施</li> <li>県外の展示会やイベント等への出展</li> <li>旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23～)</li> <li>流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28～)</li> <li>ホームページの充実化 (H29:スマートフォン対応、H30:OTA(じゃらんネット)との連携)</li> </ul> <p>◆<b>受入・おもてなし体制の整備強化・推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光関連事業者等を対象とした研修の実施</li> <li>クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29～)</li> </ul> <p>◆<b>6市町村連携による広域観光の強化・推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月)</li> <li>(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月)</li> <li>第2種旅行業登録 (H28)</li> <li>仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月)</li> <li>仁淀ブルーDMO観光戦略の策定 (H30.3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施(H30～)</li> <li>マーケティング機能の強化(ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30)</li> <li>マーケティング機能強化に向けた県版地域おこし協力隊の配置 (R2～)</li> <li>第2期仁淀川流域広域観光振興計画の策定 (R3.12月)</li> </ul> <p>◆<b>インバウンド観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行会社との商談会等のセールス活動を実施</li> <li>ホームページの充実化 (R2:多言語サイト作成)</li> <li>簡易型ガイドブックの多言語化 (H30)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆日本版DMO登録 (R2.3月)</li> <li>◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数 H28:181本、H29:207本、H30:241本、 R元:272本、R2:78本</li> <li>◆仁淀ブルー体験博 (R3):33プログラム、422人参加</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上</li> <li>・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大</li> <li>・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化</li> </ul>



## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ <b>魅力づくりの強化・推進</b>	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化		滞在型観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：宿泊施設等との連携による周遊促進、地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用した周遊促進のための導線づくり</li> <li>●市町村・観光協会：地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用したコンテンツの磨き上げ・開発・スタートアップ支援</li> </ul>				
◆ <b>プロモーション・情報発信の強化・推進</b>	誘客促進のためのセールス・プロモーション		旅行会社へのプロモーション		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：関西・中国・四国のメディア系旅行会社を中心としたプロモーション</li> </ul>				
◆ <b>受入・おもてなし体制の整備強化・推進</b>	受入・おもてなし体制の整備		観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：地域の担い手確保や域内事業者等のスキル向上等のための機会創出、観光客等の情報を一元化する体制の整備と活用できる仕組みの構築</li> <li>●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援</li> </ul>				
◆ <b>6市町村連携による広域観光の強化・推進</b>	組織体制・連携強化		マーケティングデータ収集の強化、関係機関等との連携強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：来訪者の実態調査・分析、関係者とのPDCA推進</li> <li>●県：マーケティングデータの提供、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>				
◆ <b>インバウンド観光の推進</b>	※ R2, 3は、上記の項目内で実施していた取組を新たに項目立て。		魅力づくりの推進、受入に必要な環境や体制の整備		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：ニーズに沿ったコンテンツの磨き上げ・開発、HPの多言語対応、Wi-Fi・キャッシュレス対応など、受入体制の整備を推進</li> </ul>		
			プロモーションの推進		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：デジタルメディアを中心としたプロモーションの推進</li> </ul>		

【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.24 土佐市における体験型観光と食観光の推進</b> (土佐市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)
<b>実施主体</b>	◎(一社)土佐市観光協会、土佐市、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R3年度に開催する体験博を通じて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行うことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
体験型・食観光における入込客数	2,143人 (H30)	3,382人	1,555人	5,000人

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>地域資源を活用した旅行商品化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社向けのモニターツアーを実施 (H23:1回、H25:1回、H26:3回、H28:1回、H29.1回、R元:1回)</li> <li>・鯉節工場見学の旅行商品化(H25~)</li> <li>・クルージング体験の実施(H26~)</li> <li>・ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成 (H29.3月)</li> <li>・土佐市観光パンフレット(きもち、いいとさ)作成 (R元.9月)</li> <li>・外国語パンフレットの作成(R2.1月)</li> <li>・宇佐土曜市を活用した、着地型体験プランとして「宇佐スーパー土曜市」を開催(H22~26:年1回)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成(H29:5回)</li> <li>・観光ガイド団体の設立(R元.12月)</li> <li>・土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発 (H30.3月)</li> <li>・B級グルメ「土佐のぶしめん」の開発(R元.5月)</li> <li>・「うさまちあるき」の商品化(R元)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入し、観光ガイドチームのスキルアップ研修を実施(R2:5回)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆<b>地域資源を活用した体験メニューの定着</b></li> <li>・ホエールウォッチング体験者数 H28:2,436人 → R2:1,459人</li> <li>・クルージング体験者数 H28:22人 → R2:22人</li> <li>・観光ガイド育成 H29:4人 → R2:7人</li> <li>・ガイド件数 H28:1件11人 → R2:9件74人</li> <li>・旅行会社による視察受け入れ(R2:2回)</li> <li>・R2年度に開催予定だった体験博は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ガイド事業拡大のためのさらなるガイドの増員と育成</li> <li>・ホエールウォッチングの船頭の確保</li> <li>・二次交通機関と連携した観光商品の検討</li> <li>・土佐市の観光商品の情報発信の強化</li> <li>・感染症対策に配慮した観光客の安心安全な受け入れ</li> <li>・コロナ収束後の観光客の誘客</li> </ul>
---	--

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域資源を活用した旅行商品化	<b>地域資源の掘り起こし及び活用による商品化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>既存観光商品のブラッシュアップ、地域ならではの特性を活かした体験型観光ギフト商品の新規開発 (R2 : 1 種類、R3 : 1 種類)</li> <li>海鮮 BBQ のイベント実施 (R2～)</li> <li>ガイド事業拡大に向けた取り組み (新規ガイド育成、ガイドコースの追加)</li> <li>広報でのイベント情報の発信 (通年)</li> <li>地域おこし協力隊制度を活用した、ホエールウォッチングの船頭の育成 (通年)</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源活用及びガイド事業に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 (通年)</li> </ul> </li> </ul>				
	<b>関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルー観光協会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品の開発 (通年)</li> <li>二次交通機関 (バス会社、タクシー会社等) と連携した観光商品の検討 (通年)</li> <li>個人旅行者をメインターゲットとする商品の企画開発 (通年)</li> <li>観光商談会への参加や旅行会社へのセールス</li> <li>HP・SNS の活用による情報発信の強化 (通年)</li> </ul> </li> <li>●土佐市：広報によるイベント情報の発信 (通年)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年)</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介</li> <li>その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供 (通年)</li> </ul> </li> </ul>				
<b>体験博の開催</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：事業者との連携による体験博の開催及び情報発信</li> <li>●土佐市：広報による体験博の情報発信、体験博開催のバックアップ</li> <li>●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>					
<b>体験博を契機とした体験型商品のブラッシュアップ及び新たな商品の開発検討</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：体験博の開催を通じた新規体験メニューの発掘</li> <li>●土佐市：広報に関するイベント情報の発信 (通年)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年)</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 (通年)</li> </ul>					

仁淀側地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	<b>No.24 土佐市における体験型観光と食観光の推進</b> (土佐市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)土佐市観光協会、土佐市、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R5年度に開催する体験博に向けて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行うことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
体験型・食観光における入込客数	2,143人 (H30)	1,555人		5,000人

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><b>◆地域資源を活用した旅行商品化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行会社向けのモニターツアーを実施 (H23:1回、H25:1回、H26:3回、H28:1回、H29.1回、R元:1回)</li> <li>鯉節工場見学の旅行商品化(H25~)</li> <li>クルージング体験の実施(H26~)</li> <li>ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成(H29.3月)</li> <li>土佐市観光パンフレット(きもち、いとさ)作成(R元.9月)</li> <li>外国語パンフレットの作成(R2.1月)</li> <li>宇佐土曜市を活用した、着地型体験プランとして「宇佐スーパー土曜市」を開催(H22~26:年1回)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成(H29:5回)</li> <li>観光ガイド団体の設立(R元.12月)</li> <li>土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発(H30.3月)</li> <li>B級グルメ「土佐のぶしめん」の開発(R元.5月)</li> <li>「うさまちあるき」の商品化(R元)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入し、観光ガイドチームのスキルアップ研修を実施(R2:5回)</li> <li>仁淀ブルー体験博へのプログラム参加(R3)</li> </ul>	<p><b>◆地域資源を活用した体験メニューの定着</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホエールウォッチング体験者数 H28:2,436人 → R3:1,248人 (12月末見込み)</li> <li>クルージング体験者数 H28:22人 → R3:0人(12月末見込み)</li> <li>観光ガイド育成 H29:4人 → R3:7人(12月末見込み)</li> <li>ガイド件数 H28:1件11人 → R3:6件28人 (12月末見込み)</li> <li>旅行会社による視察受け入れ(R2:2回)</li> <li>R2、R3年度に開催予定だった体験博は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。</li> <li>狩猟体験のモニターツアー実施:10人受入</li> <li>仁淀ブルー体験博へのプログラム参加 R3:6メニュー42人の受入</li> </ul> <p><b>＜課題＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイド事業拡大のためのさらなるガイドの増員と育成</li> <li>ホエールウォッチングの船頭の確保</li> <li>二次交通機関と連携した観光商品の検討</li> <li>土佐市の観光商品の情報発信の強化</li> <li>感染症対策に配慮した観光客の安心安全な受入れ</li> <li>コロナ収束後の観光客の誘客</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域資源を活用した旅行商品化	<b>地域資源の掘り起こし及び活用による商品化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>既存観光商品のブラッシュアップ、地域ならではの特性を活かした体験型観光ギフト商品の新規開発 (R2 : 1 種類、R3 : 1 種類)</li> <li>海鮮 BBQ のイベント実施 (R2～)</li> <li>ガイド事業拡大に向けた取り組み (新規ガイド育成、ガイドコースの追加)</li> <li>広報でのイベント情報の発信 (通年)</li> <li>地域食材を活かした体験型観光</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源活用及びガイド事業に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 (通年)</li> </ul> </li> </ul>				
	<b>関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>仁淀ブルー観光協会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品の開発 (通年)</li> <li>二次交通機関 (バス会社、タクシー会社等) と連携した観光商品の検討 (通年)</li> <li>個人旅行者をメインターゲットとする商品の企画開発 (通年)</li> <li>観光商談会への参加や旅行会社へのセールス</li> <li>HP・SNS の活用による情報発信の強化 (通年)</li> </ul> </li> <li>●土佐市：広報によるイベント情報の発信 (通年)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年)</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介</li> <li>その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供 (通年)</li> </ul> </li> </ul>				
<b>体験博の開催</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：事業者との連携による体験博の開催及び情報発信</li> <li>●土佐市：広報による体験博の情報発信、体験博開催のバックアップ</li> <li>●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>					
<b>体験博開催に向けた体験型商品のブラッシュアップ及び新たな商品の開発検討</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)土佐市観光協会：体験博開催に向けた新規体験メニューの発掘</li> <li>●土佐市：広報に関するイベント情報の発信 (通年)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年)</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 (通年)</li> </ul>					

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進</b> (佐川町)
<b>実施主体</b>	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人
<b>AP への 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力を感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 上町地区への入込客数	31,225人 (H30)	30,091人		40,000人 (R5)
(2) 上町まち歩きガイド利用者数	4,512人 (H30)	4,816人		5,500人 (R5)
(3) 青山文庫の入館者数※	5,559人 (R元見込み)	4,974人		6,000人 (R4)

※ R5年度は新施設への移設準備予定のため、目標の設定年度はR4

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり

- ・歴史的風致維持向上計画の認定 (H21、H31)
- ・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施 (牧野富太郎ふるさと館、名教館、旧浜口家住宅) (H21~26)
- ・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始 (H23~)、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催 (H28~)
- ・さかわ観光協会の設立 (H25.4月)
- ・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成 (H28~29)
- ・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置 (H28~)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発 (H28、H30 : 各3回)
- ・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設新築設計業務及び施設整備の実施 (R元~2)

◆新たな青山文庫の整備

- ・「文教のまち佐川」の推進に向け、青山文庫を含む新たな複合施設の基本構想を策定 (R元)
- ・候補となる施設の耐震診断を実施 (R2)

◆体験型観光の推進

- ・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」のプレ開催 (H30)
- ・「わんさかわっしょい体験博」の開催 (R元.10~11月)
- ・第2回「わんさかわっしょい体験博」の開催 (R3.1~2月)

<主な成果>

- ◆わんさかわっしょい体験博体験プログラム及び参加者数  
H30:10プログラム/175名 (対定員参加率76%)  
→ R元:20プログラム/282名 (同59%)
- ◆ハード・ソフト両面の整備を通じて、おもてなしの体制強化につながった

<課題>

- ・新たな観光施設の整備による上町周辺の魅力向上、さらなる誘客に向けて、観光協会を中心に関係機関・団体や住民が一体となったチーム佐川でのおもてなしの体制づくり
- ・体験型博覧会の継続的な開催に向けた体験メニューの充実

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">JR 客車施設整備</div>				
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">上町地区観光案内・物販・飲食機能の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 効果的な周遊の仕組みづくり、客車施設を活用したイベント開催検討、機能強化に向けた体制整備</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用可能性検討、県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>		
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">観光客受入体制の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体： 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など 牧野公園を核とした「まちまるごと植物園」構想の展開</li> <li>●佐川町内の地域づくり団体： 町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用可能性検討、県のメディアサイト等での情報発信など</li> </ul>				
◆新たな青山文庫の整備	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">青山文庫・図書館等複合施設の整備</div>		<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">図書館開館</div>		<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">青山文庫開館</div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫： 基本計画の策定、基本・実施設計、施設整備</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫： 集客の仕掛け作り及び実践</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
◆体験型観光の推進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者： 体験型博覧会の継続的な開催に向けた体験メニューの磨き上げ 常設体験型観光メニューの実施検討</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	No.30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進 (佐川町)
実施主体	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力を存分に感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 上町地区への入込客数	31,225人 (H30)	<u>15,954人</u>		40,000人
(2) 上町まち歩きガイド利用者数	4,512人 (H30)	<u>695人</u>		5,500人
(3) 青山文庫の入館者数※	5,559人 (R元見込み)	<u>3,106人</u>		二

※(3)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり

- ・歴史的風致維持向上計画の認定 (H21、H31)
- ・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施 (牧野富太郎ふるさと館、名教館、旧浜口家住宅) (H21～26)
- ・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始 (H23～)、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催 (H28～)
- ・さかわ観光協会の設立 (H25.4月)
- ・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成 (H28～29)
- ・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置 (H28～)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発 (H28、H30：各3回)
- ・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設新築設計業務及び施設整備の実施 (R元～2)
- ・牧野公園を核とした植物が中心のまちづくりに向け、「まちまるごと植物園」のロゴプレートを配布 (R元～)

◆青山文庫の施設整備

- ・「文教のまち佐川」の推進に向け、青山文庫を含む新たな複合施設の基本構想を策定 (R元)
- ・候補となる施設の耐震診断を実施 (R2)
- ・複合施設としての整備から、現立地での改修へ向けて検討中 (R3)

◆体験型観光の推進

- ・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」のプレ開催 (H30)
- ・「わんさかわっしょい体験博」の開催 (R元～)

＜主な成果＞

◆JR客車収容施設オープン (R3)

- ◆わんさかわっしょい体験博体験プログラム数及び参加者数  
H30:10プログラム/175名、R元:20プログラム/282名  
R2:16プログラム/189名、R3:17プログラム/143名

- ◆ハード・ソフト両面の整備を通じて、おもてなしの体制強化につながった

＜課題＞

- ・歴史資源等を活用した賑わいが生まれる取組の推進
- ・体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの充実



## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">JR 客車施設整備</div>				
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">上町地区観光案内・物販・飲食機能の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 効果的な周遊の仕組みづくり、客車施設を活用したイベント開催検討、機能強化に向けた体制整備</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>		
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">観光客受入体制の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体： 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など 牧野公園を核とした「まちまるごと植物園」構想の展開</li> <li>●佐川町内の地域づくり団体： 町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信など</li> </ul>				
◆青山文庫の施設整備	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">複合施設の整備検討</div>				
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">青山文庫の整備方針の検討・施設改修</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫：整備方針の検討</li> <li>●県（地域本部等）：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫： 整備方針の検討、基本・実施設計、施設改修</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
◆体験型観光の推進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者： 体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの磨き上げ 常設体験型観光メニューの実施検討</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>				

# 修正項目 (案)

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.31 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進</b> (越知町)
<b>実施主体</b>	◎越知町観光協会、◎おち駅物販経営協議会、◎越知町、JA 高知県(仁淀川地区) など
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) おち駅での販売額	1.0億円 (H30)	1.17億円		1.1億円
(2) 横倉山自然の森博物館 入館者数	6,507人 (H30)	8,564人		9,700人
(3) カヌー・ラフティング利用者 数	1,694人 (H30)	1,915人		2,400人

### これまでの主な動き

<p><b>〈これまでの取り組みの内容〉</b></p> <p>◆<b>観光物産館おち駅の利用者拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光物産館おち駅の整備 (H22.3月) →H21 産振補助金の活用(事業費 7,301万3千円)</li> <li>販売促進にかかる備品等の整備 →H22 産振補助金の活用(事業費 875万8千円)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、新商品開発や店づくり、情報発信等のスキルアップを実施(H22:4回、H23:5回×2、H25:4回、H26:2回、H27:5回、R2:3回)</li> </ul> <p>◆<b>横倉山のさらなる魅力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横倉山魅力資源活用計画の策定 (H28.3月) →H27 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 (事業費 54万7千円)</li> <li>横倉山ガイドメニューづくり (H27~29)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、横倉山ガイド基本コース台本を作成 (H28:5回) し、継続して他コースも台本を作成 (R元)</li> <li>横倉山ガイドモニターツアーの実施 (H30.4月)</li> <li>横倉山トレッキングツアーの開始 (H30.4月)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、ツアーの情報発信強化に向けた写真撮影等の技術を習得 (R元:1回)</li> </ul>	<p>◆<b>カヌー、ラフティングの利用者拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光拠点等整備事業費補助金などを活用して、カヌー及びラフティングの備品を整備 (H22、H24、H30、R元)</li> <li>ガイドの養成・確保 (H22~)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、ガイド養成を実施 (H23:5回)</li> <li>カヌー及びラフティング事業を開始 (H23.7月)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、Eポートを活用した体験観光メニューを検討 (H28:1回)</li> </ul> <p><b>〈主な成果〉</b></p> <p>◆おち駅の来客数 H22:82,974人 → R元:86,550人</p> <p>◆横倉山トレッキングツアー参加者数 H30:94人 → R元:73人</p> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おち駅の来客数増加に向けた、店舗スタッフの確保や情報発信の強化</li> <li>横倉山トレッキングツアーの一層の周知、充実</li> <li>カヌー及びラフティング利用者増加に対応するためのガイドの確保</li> <li>地場産品等を活用した新商品開発に取り組むための、新たな調理場の整備</li> </ul>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光物産館おち駅の利用者拡大	利用者のニーズに応じた店づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おち駅物販経営協議会： 商品の安定確保・充実、町内施設との連携</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	効果的な情報発信による新規利用者の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おち駅物販経営協議会： 情報発信手段の検討・実践</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆横倉山のさらなる魅力向上	新たな調理場の検討及び整備		新商品開発及び販売		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町： 関係機関との調整及び整備</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内個人・事業者、おち駅物販経営協議会： 新商品の開発、おち駅等での販売</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
	横倉山自然の森博物館の活用				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町： SNS等を活用した情報発信、他機関との連携</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	横倉山トレッキングツアーの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町観光協会、越知町： 横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施、PRによる知名度の向上</li> <li>●県（地域本部等）： 勉強会の実施協力、産業振興アドバイザーなど各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	県内外へのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町、(株)スノーピーク： 各メディア等を活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上</li> <li>●県（地域本部等）： 県関係メディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	ガイドの育成・確保				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町、(株)スノーピーク： ガイド確保に向けた情報発信、観光関係者合同のガイド勉強会の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

分野	観光
----	----

AP名 (実施地域)	<b>No.31 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進</b> (越知町)
実施主体	◎越知町観光協会、◎おち駅物販経営協議会、◎越知町、JA 高知県(仁淀川地区) など
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) おち駅での販売額	1.0 億円 (H30)	<u>1.33</u> 億円		1.1 億円
(2) 横倉山自然の森博物館 入館者数	6,507 人 (H30)	<u>6,187</u> 人		9,700 人
(3) カヌー・ラフティング利用者 数	1,694 人 (H30)	<u>1,429</u> 人		2,400 人

これまでの主な動き	
<p><b>〈これまでの取り組みの内容〉</b></p> <p>◆<b>観光物産館おち駅の利用者拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光物産館おち駅の整備 (H22.3月) →H21 産振補助金の活用(事業費 7,301 万 3 千円)</li> <li>販売促進にかかる備品等の整備 →H22 産振補助金の活用(事業費 875 万 8 千円)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、新商品開発や店づくり、情報発信等のスキルアップ実施(H22:4回、H23:5回×2、H25:4回、H26:2回、H27:5回、R2:3回)</li> <li>新たな調理場の実施設計に関する業務委託 (R3)</li> </ul> <p>◆<b>横倉山のさらなる魅力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横倉山魅力資源活用計画の策定 (H28.3月) →H27 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 (事業費 54 万 7 千円)</li> <li>横倉山ガイドメニューづくり (H27~29)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、横倉山ガイド基本コース台本を作成 (H28:5回) し、継続して他コースも台本を作成 (R元)</li> <li>横倉山ガイドモニターツアーの実施 (H30.4月)</li> <li>横倉山トレッキングツアーの開始 (H30.4月)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、ツアーの情報発信強化に向けた写真撮影等の技術を習得 (R元:1回)</li> </ul>	<p>◆<b>カヌー、ラフティングの利用者拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光拠点等整備事業費補助金などを活用して、カヌー及びラフティングの備品を整備 (H22、H24、H30、R元)</li> <li>ガイドの養成・確保 (H22~)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、ガイド養成を実施 (H23:5回)</li> <li>カヌー及びラフティング事業を開始 (H23.7月)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、Eポートを活用した体験観光メニューを検討 (H28:1回)</li> </ul> <p><b>〈主な成果〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆おち駅の来客数 H22 : 82,974 人 → <u>R2 : 80,711</u> 人</li> <li>◆横倉山トレッキングツアー参加者数 H30 : 94 人 → <u>R2 : 82</u> 人</li> </ul> <p><b>〈課題〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆<u>おち駅の取扱商品の充実に向けた会員(生産者)の確保</u></li> <li>◆横倉山トレッキングツアーの一層の周知、充実</li> <li>◆<u>カヌー、ラフティング利用者拡大に向けたガイドの確保・育成</u></li> <li>◆<u>地場産品等を活用した新商品の開発に向けた新たな調理場の整備</u></li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆観光物産館おち駅の利用者拡大	<b>利用者のニーズに応じた店づくり</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おち駅物販経営協議会： 商品の安定確保・充実、町内施設との連携</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	<b>効果的な情報発信による新規利用者の獲得</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おち駅物販経営協議会： 情報発信手段の検討・実践</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆横倉山のさらなる魅力向上	<b>新たな調理場の検討及び整備</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町： 関係機関との調整及び整備</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<b>商品開発等</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内個人・事業者、おち駅物販経営協議会： 新商品の開発、おち駅等での販売</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>横倉山自然の森博物館の活用</b>				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町： SNS等を活用した情報発信、他機関との連携</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>横倉山トレッキングツアーの充実</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町観光協会、越知町： 横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施、PRによる知名度の向上</li> <li>●県（地域本部等）： 勉強会の実施協力、産業振興アドバイザーなど各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
	<b>県内外へのPR</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町、(株)スノーピーク： 各メディア等を活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上</li> <li>●県（地域本部等）： 県関係メディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>					
<b>ガイドの育成・確保</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●越知町、(株)スノーピーク： ガイド確保に向けた情報発信</li> <li>●県（地域本部等）： 情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し</li> </ul>					
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					